議長・副議長選挙、各常任委員の選任が行われました

吉川市では慣例として、2 年ごとに議長・副議長選挙が行われています。前回市議会議員選挙から 2 年が経過し、折り返しを迎えました。2 月 7 日の臨時議会では、議長・副議長から辞職願が提出され、改めて議長選挙・副議長選挙が行われました。

議長に加藤克明氏
副議長に稲垣茂行氏

議長選挙は、加藤克明議員（自民党）11 票、中島通治議員（自民党））9 票で、加藤克明氏が再選されました。

副議長は、稲垣茂行氏（市民の会・無所属）10 票、降旗聡議員（無所属）10 票の同数によりくじ引きが行われ、稲垣茂行氏が選出されました。

この 2 年間、コロナの影響下で議会もたくさんの懸案を抱えてきました。感染拡大の中で一般質問をするかどうかなども議論されてきました。そういう中で議員の質問権を大切にし、議会運営にあたられた加藤克明議員に、今回は 1 票を投じました。

各常任委員会も再編

各常任委員会の構成

総務水道 常任委員会	委員長：戸田馨（未） 副委員長：赤出川義夫（自） 飯島正義（共）　稲垣茂行（市） 小野潔（公）　加藤克明（自） 齋藤詔治（市）
文教福祉 常任委員会	委員長：吉川敏幸（自） 副委員長：雪田きよみ（共） 伊藤正勝（市）　大泉日出男（公） 成本直寛（無）　林美希（未）
建設生活 常任委員会	委員長：稲葉剛治（未） 副委員長：五十嵐恵千子（公） 岩田京子（市）　遠藤義法（共） 中島通治（自）　松崎誠（自）

敬称略 （自）自民党 （市）市民の会・無所属
（共）共産党 （未）未来会議 （無）無所属

今回、私は議会広報委員会の委員長を務めることになりました。前回は副委員長を務めさせていただきました。「議会だより」を議会ごとに発行するのですが、より良い広報をつくるために会派を問わずみんなで力を合わせられる、とても魅力的な委員会でした。今回もより良い議会だよりの発行を目指し、皆さんと一緒に頑張ります。

きよみの暮らし

◆年末から義母が体調を崩し、訪問看護に長年従事してきた私は義母のもとに「訪問看護」に通っています。行くと「お嫁さんが看護師で良かった」と言ってくれるので、それが嬉しく、せっせと通っています。◆驚いたのは、義母の住む町ではコロナ禍で要介護認定の申請者が激増し、申請してもなかなか認定調査も受けられず、認定結果が出るまでにも非常に時間がかかるという事態です。◆高齢者が健康な状態から要介護状態へと変わっていく間に、「フレイル」（虚弱）という状態に陥ると言われています。フレイルを予防するうえで最も大切なことは「社会参加」「身体活動」「栄養」ですが、コロナ禍で「社会活動」と「身体活動」の低下が余儀なくされています。要介護者が増えるのも無理はありません。コロナ禍は私たちの暮らしに、本当に多大な影響を与えています。◆2 月 4 日、後藤厚生労働大臣はさらなる感染を防ぐために、2 歳以上の子どものマスク着用について前向きに進めるべきだという認識を示しました。その後、専門家などから慎重な意見が出され、「マスクの着用が無理なく可能と判断される児童」と年齢を明示しないと方向転換されました。マスク着用による子どもの健康への影響が懸念されます。同時にコミュニケーション能力を高めていくこの時期に、マスクで相手の表情が読み取れないということがどんな影響をもたらすのか、とても心配です。◆5 歳から 11 歳の子どものワクチン接種が、予防接種法に基づく臨時接種に位置づけられました。しかし、接種そのものは「努力義務ではない」とのことです。親は何をどう考えて接種するか否かの判断をすれば良いのでしょうか。判断基準も示されないまま判断を迫られる現状に、とても心が痛みます。

2022 年 2 月号　雪田きよみのつわぶき便り　N054

つわぶき便り

日本共産党吉川市議会議員
雪田　きよみ
住所：吉川市きよみ野 3-23-1
電話：983-7140
e-mail:kiyomi.snow@mbr.nifty.com
URL:kiyomiyukita.com

PCR 検査を受けるには（症状がない時・ある時）

コロナ感染が急激に広がっています。埼玉県の PCR 検査についてお知らせします。

埼玉県 PCR 検査等無料化事業

埼玉県は昨年末、無症状の方を対象とした無料検査をスタートさせました。

① ワクチン・検査パッケージ制度・対象者全員検査等定着促進事業

対象者は発熱などの症状のない方が、「ワクチン・検査パッケージ制度」又は「対象者全員検査等」を利用する為の検査です。

具体的には、ワクチン接種証明か陰性証明を提示することにより「イベントや飲食店等の入場制限及び人数制限緩和」「飲食店が割引や追加的なサービスを提供」「高齢者施設等や医療機関の面会」「帰省・大会・コンクールに参加」などを可能とするための検査です。

② 感染拡大傾向時の一般検査事業

対象者；発熱などの症状がなく、感染に不安があり、埼玉県在住であること。

無料検査実施施設

吉川市では以下の 4 つのドラッグストアです。

必ず事業者に電話をして、予約を取ってからお出かけください。埼玉県ホームページ「埼玉県 PCR 検査等無料化事業」からも web 予約が可能です。

◆ ウエルシア薬局吉川栄店
吉川市栄町 845-1　TEL：984-4371

◆ ウエルシア薬局イオンタウン吉川美南 ANNEX 店
吉川市美南 3 丁目 12 番地
TEL：984-2860

◆ セキ薬局 平沼店
吉川市中央 3-2-7　電話予約不可
インターネット予約「セキ薬局　埼玉県 PCR 検査等無料化事業のご案内」で検索

◆ 薬局くすりの福太郎 吉川駅前店
吉川市木売 1-5-3 吉川情報サービスセンタービル 1 階　TEL：984-6280

埼玉県指定医療機関

発熱等の症状がある方の診療を行い、必要な検査を行う医療機関（埼玉県指定医療機関）は以下の通りです。各医療機関は、他の症状の患者と接触しないように発熱患者専用の受付時間を設定しています。**必ず事前に電話連絡をしてから受診してください。（　）内は電話番号です。**

★相羽医院（982 - 6266）★秋本小児科アレルギー科医院（983 - 1515）★磯久クリニック（984-2211）★金田整形外科（981-6755）★土屋医院（982-2156）★さくら医院（982-5511）★埼葛クリニック（982-3211）★メディカルコミュニティマイ（981-7171）★たじま眼科整形外科（971-8139）★うちだ耳鼻咽喉科（983-1234）★大久保クリニック（982-7360）★仁クリニック（940-0433）★つしまメンタルクリニック（981-0645）★ネオポリスハヤシ医院（981-0510）★はすみクリニック（984-5112）★むさし野ファミリークリニック（972-4587）★吉川中央総合病院（982-8311）★吉川脳神経外科（984-3001）★吉川みなみクリニック（982-2211）

第6波の感染拡大・検査キットの不足・医療のひっ迫 重い岸田首相の責任

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの生活に深刻な影響をもたらしています。前頁で無料検査をご紹介しましたが、現実には検査キットが不足しています。

検査キットの不足が深刻

政府は濃厚接触者を医療機関の検査を受けなくても陽性と判断する「みなし陽性」を認める方針を示しましたが、埼玉県は従来通り医療機関での受診と検査を実施するよう、1月26日に県内の市町村に通知を出しました。しかし2月10日には一転、同居する濃厚接触者に症状が出た場合には、医師の診断を受ければ検査を受けなくても陽性者として扱う「みなし陽性」を導入しました。検査キットが不足しているためです。

PCR検査が追い付かない

また感染拡大に伴い急速に検査件数が増大していますが、結果の判定が追いついていません。市のPCR検査センターでも、結果が出るまでに4日程度かかっているそうです。

新型コロナウイルスの治療薬とされる「モルヌピラビル」は、発症から5日以内で重症化リスクがある患者に対し、入院や死亡のリスクを30%低下させる効果が確認されたと報告されています。検査結果が出るまでに4日かかっていたら、服用のタイミングを逃しかねません。

コロナ対応病院の現実

近隣のコロナ対応医療機関の職員の方にお話を伺いました。

オミクロン株の感染拡大に伴い、家族連れや小さなお子さんを連れて受診するケースが増えているそうです。病院では対応する職員を増やしていますが、寒い中外で長時間待たせてしまう現状とのことです。

1月の第2週から2月の第1週の間に受診件数は1.5倍、590件増え、陽性率は48%。高齢者の入院が増え、平均年齢は63歳。ワクチンを3回摂取した人の入院も増えています。

高齢の感染者が重症化し、そのため一般の入院患者の受け入れが困難となり、救急車の受け入れも制限せざるを得ない状況と、まさしく医療がひっ迫している状況が生々しく語られました。

政府は何をしていたのか？

ウイルスは生き残りをかけて、この世の中で戦っています。ウイルスが生き残るためには、感染力の強化と弱毒化が必要だと言われています。オミクロン株のような感染力の強いウイルスへの変異は、当然予測できたのではないでしょうか。

本来なら昨年秋、感染が少し落ち着いていた時期にPCR検査を強化するための十分な準備を進めるべきだったと思います。

3回目のワクチン接種も、世界的に見ても非常に遅れています。そもそも2回目の接種と3回目の接種の間を8カ月空けるという政府の方針も、何ら科学的根拠のないものでした。

お話をしてくれた職員の方は、「政府がもっとコロナ対策の見通しをもって取り組んでいたら、こういう事態は生まれなかった。この状況を作り出した政府の責任は非常に重い」と語りました。

生活相談

いつでも、どんなことでも、気軽にお電話ください。

983-7140

「住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金」給付へ

2月7日、吉川市の臨時議会に上程された議案は、昨年末に一括現金給付された「子育て世帯への臨時特別給付金」と、今回給付される「住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金」、更にそれに伴う補正予算でした。

対象は住民税均等割り 非課税世帯と家計急変世帯

「住民税非課税世帯」には、既に手続き書類が送付され始めています。昨年12月10日現在、世帯全員の令和3年度分の住民税均等割が非課税である世帯が支給対象です。世帯全員が、住民税が課税されている他の親族等の扶養を受けている場合は対象外となります。

対象になる場合は、同封された「支給要件確認書」に記入し、手続きをしてください。

「家計急変世帯」とは、令和3年1月以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて収入が減少し、住民税均等割非課税相当水準以下の世帯の方です。申請書は市役所・社会福祉協議会・市民サービスセンター・中央公民館・各地区公民館・旭地区センター・総合体育館・おあしすに置かれています。

DV等で避難している方へ

配偶者やその他の親族からの暴力等で住所地以外に避難中の方も、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金を受給できる可能性があります。

住所地のご家族が既に給付金を受け取っている場合でも、一定の条件（DV保護命令と収入要件）を満たせば、現在お住いの市区町村から受給することができます。現在お住いの市区町村で手続きをお願いします。

子育て世帯への給付金は、昨年9月分の児童手当受給者が対象です。10月以降離婚した方やDVで避難している方への対応について、市は「きめ細かく対応していきたい」と答えています。

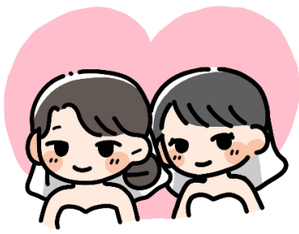
「パートナーシップ宣誓制度」がスタート！

パートナーシップ制度とは、同性のカップルを「婚姻に準ずる関係」と公認し、お互いをパートナーと定義する制度のことです。

一昨年3月議会に「吉川市におけるパートナーシップの認証制度（仮称）および性的少数者に関する諸問題への取り組みに関する請願」が提出され、自民党の4人の議員が退席、残りの15人の議員全員が賛成し、採択されました。

私はその時日本共産党吉川市議員団を代表して賛成討論をして、「ジェンダー平等社会の実現を目指す今、この時代に、異性婚者には当たり前に認められている権利が、同性カップルには認められていない。これは本当に残念な状況だ 」と発言しました。

また昨年3月、札幌地裁は「異性愛者に対しては婚姻という制度を利用する機会を提供しているにもかかわらず、同性愛者に対しては、婚姻によって生じる法的効果の一部すら享受する法的手段を提供しないとしていることは、法の下の平等を定める憲法14条1項に違反する」という画期的な判決を下しました。



自治体のパートナーシップ制度は2015年に東京都渋谷区と世田谷区が初めて導入しました。多様性の尊重や共生社会の実現が重視されるようになってきた中で、制度を導入する自治体は徐々に広がってきました。今年1月現在、少なくとも全国の141自治体が導入しているそうです。

吉川市でも貴重な一歩を踏み出すこと、本当にうれしく思います。